埼玉退教だより

2016年度　第2号　発行者　沖松　信夫
発行日　2016年10月28日　編集責任者　髙橋　勇

社会保障費か防衛費か

会長　沖松信夫

沖縄のヘリパッド建設の現場で機動隊員から信じられない暴言が出ました。それをかばうかのような発言が大阪府知事から出ました。このことは、人権意識の欠如を示すものです。国家権力の末端、地方自治の責任者のこれらの発言は、民主主義を圧殺する政府与党の姿勢そのものです。絶対に許せぬ発言です。

また、日本の安全保障の責任者が白紙領収書を発行し、政府がそれを是として恥じない状況は、日本の政治に度し難い程の道徳の劣化が進んでいることを示しています。今や政界の常識は、社会の非常識と言われています。

隣国の弾道ミサイル発射が成功したとか失敗したとか、マスコミは大きな関心を寄せています。日本に到達するか否かが問題のようで、到達したときどんな悲惨な結果になるかは想像していないようにみえます。

私は、1942年（昭和17年）４月１８日の初の東京空襲のショックを思い出しています。１６機のノースアメリカンB25が、東京・名古屋・大阪・神戸を空襲し、中国に飛び去りました。当時政府や軍部は、『神州』の空は１機も侵かさせないと言っていました。しかし考えてみれば、広い日本の空を護ることが出来るはずがありません。現在でも連射の弾道ミサイルを打ち落とすことは、イージス艦やパック３では不可能です。特に潜水艦発射の弾道ミサイルを打ち落とすことは絶対に不可能であると言われています。

それに、政府は原発の存在を関連付けて考えることをわざと避けている様に見えます。原発が攻撃の対象にならぬ保証はどこにもありません。戦争準備に熱心な自公政府が原発再稼動とは矛盾そのものです。

国会で、稲田防衛相がかつて子ども手当に関連して『防衛費にそっくり回せば、軍事費の国際水準に近付く』と発言したことが追及されました。このことは、自公政府の本音を表わすものとして重要です。一つは防衛費の増額を企んでいるということ、もう一つは社会保障費を削減して軍事費に振り向けようとしていると思われるからです。

現在約５兆円の防衛費を２倍、３倍と増額し戦前のように平時でも国家予算の３０％、４０％にされることを国民は願っていません。国民は年金制度や医療・介護制度の充実を求めているのです。

平和友好の国にミサイルを撃ち込む国はありません。平和主義ほど強いものはないことを政府に理解させたいものです。

「戦争法廃止の　１０国会正門前行動」に参加して　　児玉支部　根岸峯生

2016年度　日退教組織活動交流集会参加報告

副会長　小林　永三郎

1　日退教関東地区組織活動交流集会

日時と会場　　２０１６年9月１３日（金）ラポール日共済会議室

参加者　　小林、

恒例のセレモニーに引き続いて、参加９都県１２退教の現況・活動報告が行われた。初めて参加した私にとっては、各退教の現況や活動状況は大変勉強になった。共通して抱えている問題は、高齢化と会員の減少で、特に新規会員の加入が退職者の再任用の定着により大変難しくなっていることであった。

次いで、レポート報告が行われ、静岡（2015・16の安保反対・改憲反対の地区退教の取り組み）千葉（千葉県退教の報告）千葉高（組織強化・拡大に向けた取り組みと課題）埼玉（敗戦70年誌　語り継ごう・戦時・戦後体験発刊の取り組み）の４本が行われた。

埼玉のレポートは私が担当し70年誌の発刊の経緯や問題点などを報告、会場で敗戦70年誌の販売も行ってきた。

当日報告された４つのレポート全てが10月13日の日退教組織活動交流集会でも発表することとなった。

2　日退教組織活動交流集会

日時と会場　　２０１６年10月13日(木)　ラポール日共済会議室

参加者　　高橋事務局長・上田入間支部常任委員・小林

午前中のセレモニーに続いて、特別報告「辺野古新基地・高江ヘリパット建設を許さない沖縄の戦い」が沖縄退教仲宋根寛勇氏により行われた。現地からの大変生々しい厳しい戦いの様子が報告され、参加者の感動と共感を呼んだ。続いて、日退教組織部長の平岡良久氏から2016年度の「組織現状調査」報告が行われた。主な内容は①会員数の減少傾向にあり、新規会員の拡大が大きな課題②再任用者の組織化の問題　③女性会員の状況調査の報告であった。

午後から３分科会（第１「組織・平和」第２「教育・人権・組織」第３「福祉・文化・組織」）に分かれ、各ブロックから選出された１２のレポートが各分科会で４つずつ報告された。埼玉のレポートは第２分科会で行われ、司会者は埼玉退教常任委員の上田氏が勤めた。千葉退教の「千葉退教の報告」に続いて私が「敗戦７０年誌」についての報告を行い、高橋事務局長が補足の説明をした。次いで、石川退教の「教科書採択に対する取り組み」　熊本退教の「政令市初めての市議会議員選挙を産別連携で取り組んだ」の４本が報告され、活発な意見交換が行われた。

会場で「敗戦７０年誌」を販売し、大いに宣伝をしてきた。

「戦争法廃止9．19国会正門前行動」に参加して

児玉支部　根岸峯生

あいにくの雨模様でしたが、岡部駅から１時３８分の電車で児玉支部の丸山さん、深谷駅から長谷川さんと３人で東京に向かいました。池袋駅を経由して地下鉄で永田町駅へ向かいました。永田町駅からは、シュプレヒコール（今は単にコールと言う）が聞こえる小雨の中を、憲政記念館前の日教組・日退教の旗を目指して歩き出しました。憲政記念館前は、歩道に多くの反安保を願う人々が結集していて、移動に時間がかかりましたが、日教組・日退教の旗と現役･退教の多くの仲間と無事合流することができました。雨の中、本当に多くの人が集まり、身動きも不自由なほどでした。

戦争法廃止の集会は、再びコールで熱気を帯びてきました。そして、この集会や野党共闘で支援･連体し合う政党の代表による、熱のこもった挨拶で始まりました。民主党からは岡田代表（当時）が、共産党からは志位委員長が、社民党からは福島副代表が、生活の党と山本太郎の仲間たちの木戸口参議院議員が醸成と連帯を訴えて挨拶いたしました。

次に、「戦争させない・９条壊すな！総がかり実行委員会」の主催３団体による挨拶がありました。始めに「戦争をさせない **1,000** 人委員会」の清水さん、次に「解釈改憲で憲法９条を許すな」の清水さん、３番手に「憲法共闘センター」の小田川さんが挨拶に立ちました。みんな、雨の中にもかかわらずこのようにたくさんの人々が集まってくれたことに感謝しつつ、スーダンへの自衛隊派遣など、今後の国会情勢に合わせて力を結集していくことを訴えていました。降りしきる雨の中でしたが、みんな集会挨拶の人々の声に、闘志を燃やしながらじっと耳を傾けていました。

そして、最後に連帯する各団体の挨拶が続きました。「学者の会」から高山さんからはじまり、「立憲デモクラシー」の西谷さん、旧シールズの林田さん、「安保関連法に反対するママの会」から諸星さん、「日本弁護士連合会憲法対策本部」から山岸さん、「元自衛官」から井筒さん、「沖縄一坪反戦地主会 」から道原さん、「違憲訴訟の会」から国岩さん が、地からの困った挨拶を行いました。特に「元自衛官」の井筒さんのあいさつは、安倍総理の戦争できる国に向かいつつある今の国会姿勢で、自衛官の命をどう守るかという鋭い訴えに心を打たれました。

最後に、「戦争をさせない **1,000** 人委員会」の福山さんから、今後の集会や行動などの提起がありました。

家に帰ってから、ニュースを見ました。雨の中の集会の様子と、支援・連帯する政党代表のあいさつ、数万人いるかと思われる多くの参加者の様子などが放映されていました。また、インターネットには「戦争させない・９条壊すな！総がかり実行委員会」の声明文がありましたので、初めの一部を紹介します。

声　　明

９月19日、政府・与党は強行採決に次ぐ強行採決を重ね、日本を海外で戦争する国にする憲法違反の戦争法を成立させた。　私たちは満身の怒りを込めて抗議する。一内閣の恣意的な憲法解釈の180度の転換よる戦争法は、それ自体違憲・無効であり、立憲主義の大原則を否定するもので、断じて認めることはできない。私たちは、戦争法のすみやかな廃止を実現するため全力を尽くし、戦争法の発動を許さない世論と運動を発展させる。（以下略）

９・２２さようなら原発・戦争集会

入間支部　上田　典男

雨の中、代々木公園での集会に参加してきました。参加者は約９５００人。前日の新聞には、「もんじゅ」を廃炉とする方向が取り上げられていました。主催者側の澤地久枝さんは、「政府はもんじゅをやめる事は当然，更に原発もやめる勇気を持つべきだ」と訴えました。アーサービナードさん、鎌田さん、他の皆さんからも政府の原子力政策に対する批判や訴えがありました。

そして何と言っても、福島からの「避難指示が解除された所は、故郷に帰れますよ」と言われても、生命の安全がどれくらい確保・保障されているのか心配だと訴えが、ずんと心に響きました。雨のためデモは中止。残念でした。

安心して心豊かに暮らせる社会をめざして

五者合同学習会参加報告　　石川　博

10 月 12 日、ラポール日教済に日退教・日教組・教職員共済生協などの会員が全国から集まりました。この日には、２つの講演がありました。

山内敏弘さん（1940 年生、一橋大学名誉教授）の講演は、

安倍政権による憲法改悪の動き～緊急事態条項導入論と９条改憲論を問う～

Ⅰ　参議院選挙の結果と憲法審査会での審議

Ⅱ　「お試し改憲」または「露払い改憲」のいくつかの案

Ⅲ　「本丸改憲」としての緊急事態条項導入論

Ⅳ　「本丸改憲」としての９条改憲論

Ⅴ　憲法９条の意義と課題

Ⅵ　結びに代えて

・・・そこで、来たるべき衆議院選挙では、改憲勢力がまた衆議院の３分の２議席を確保することがないように、改憲反対勢力が少なくとも３分の１以上の議席を確保するようにすることが、改憲阻止のためには是非とも必要であろう。そのためにも、全国各地のさまざまな市民運動や労働組合運動が、改憲阻止の運動を展開するとともに、それら市民運動・労働運動に支えられた野党共闘を今後とも維持し発展させていくことが重要と思われる。

小川正人さん（公立学校共済組合本部　厚生部長）の講演は、

医療保険制度の動向

1　医療保険制度の体系

2　医療保険制度の動向

3　公立学校共済組合の短期給付事業等の概況

専門家によるそれぞれの講演は、説得力のあるもので聴きごたえがありました。毎年、9 月と 10 月には日退教の講演会があります。ぜひ、参加してください。

埼玉から沖縄を考え、支援・連帯しよう！

入間支部　円城　忠文

10月1日から4日まで、日退協第七次沖縄交流団に町田武俊氏（入間支部事務局次長）と共に参加し、2日の学習会に引き続き3日のフィールドワークで、高江米軍北部訓練場と辺野古新基地予定地を訪問する予定であった。ところが運が悪いことに、非常に強い台風18号が沖縄に近づいてきて、フィールドワークが中止になってしまったのである。

これには、期待していただけに大変がっかりしたが、大いに学ぶところがあり、行って良かったと思う。先ず第一に、現地沖縄の自然・環境と県民の方々、退教の仲間たちの気持ち・生活を実感することができたことである。日本人の人口の1パーセント140万人の県民が、日本にある米軍基地の74パーセントを背負わされている不条理な現実、これを私たち99パーセントの日本人はどう思い、考え、行動するべきか、改めて考えさせられた。

次に、辺野古と高江の問題だ。安倍自公政権は「世界一危険な普天間の基地の問題を解決するには、辺野古移設が唯一の策だ。」と言う。しかし、そうではない。沖縄から考えれば、「普天間基地は、沖縄の全基地のわずか2パーセントの面積で、元々宜野湾市・市民の土地だから、米軍から返してもらえばよい。」だけの話だ。辺野古に新基地を建設するには1兆円がかかる、と言われている。そして、ジュゴンやサンゴなど貴重な自然が破壊される。高江については言語道断で、普天間基地よりももっと危険で騒音のひどい飛行訓練場を、政府は住民の反対を無視して強引に建設しようとしている。米軍のために、全国から集められた日本の警察が日本人を弾圧することなどあってはならないことだ。

日本政府の本音は、「日米軍事同盟強化のためには沖縄に犠牲になってもらうしかない。」ということだ。その考え方の基には、中国、朝鮮（北朝鮮）を仮想敵国として、国民の不安を煽り、軍需産業を盛んにして防衛費を増大し、米軍と共に「戦争法」を実行していこうという大変危険な意図が隠されている。

沖縄を考えることは、日本の平和を考えることに通じている。平和とは、敵を作らないことであり、政府に戦争をさせないことである。政府は軍隊がなければ戦争はできない。憲法9条の理念はそこにある。自衛隊は、あくまでも専守防衛に徹しなければならないし、戦争をする米軍とは絶対に一体になってはならない。戦争法を一日でも早く廃止し、米軍基地を二度と、朝鮮、ベトナム戦争のときのように戦争する基地にしてはならないし、沖縄県民を差別し苦しめてはならない。埼玉の各地域から、全国から沖縄、平和を考え、支援、連帯する行動を盛り上げよう。

退職教職員関東ブロック囲碁大会に参加して

高校支部　　鈴木容二

１０月１４日（金）、神田川にほど近い新宿のラポール日教済を会場として、１都８県の代表により行われました。本県からはＢクラス（５段～２段）に堀越さんと鈴木、Ｃクラス（初段以下）古谷さんが参加しました。

大会は持ち時間４０分の時計を使用し、時間切れ即負けの厳しい規定で対局が開始されました。各クラス共各都県の予選を勝ち抜いてきた選手で、真剣勝負の連続でした。本県の皆様も健闘し、五分以上の成績を上げました。Ｂクラスでは、鈴木が決勝で神奈川代表に敗れ「準優勝」となりました。

対局終了後は、皆平静さを取り戻し、お互いの健闘をたたえ合い、またの再開を誓っていました。退職して高齢になっても多勢の人々と交流がができ、又元気で楽しく過ごせろのも健康であることの有り難さをつくずく感じた一日でした。

[redacted]

１．日　　時　　２０１６年１１月１日（火）１４：００～１６：００
２．会　　場　　坂戸市文化施設「オルモ」２Ｆギャラリー１
　　（東武東上線北坂戸駅東口）
３．内　　容　　①テーマ＝「埼玉県の高齢者支援計画について」
　　②講　師＝埼玉県高齢者福祉課職員（県庁職員）

※埼玉県の出前講座、入間支部会員・支部外の埼玉退教会員多数の参加期待

第２７回埼玉教育研究集会

１，日　　時　　２０１６年１１月６日（日）
２，会　　場　　狭山経済高等学校
３．日　　程　　９：３０～　開会式　講演（受付９：００～）
　　１３：００～　分科会
※講　　演　　講　師　本間正吾さん（神奈川教育会館教育研究所）
　　演　題　豊かな学びに向けて
　　～主権者教育の可能性を考える～

※現在の政治・経済の流れから、平和教育・民主教育特に主権者教育の必要性が高まっています。ご都合の付く会員多数の参加を期待します。

第23回『にかり』写真展（比企支部）のご案内

１．日　　時　　２０１６年１１月１６日（水）～１１月２１日（月）
　　AM９：００～PM５：００（最終日はPM４：００まで）
２．会　　場　　東松山市民文化センター

年金受給試算 3%減

改革法案 直近10年に適用なら

厚生労働省は17日、年金制度改革法案＝🔑＝に盛り込み、2021年度からの実施をめざす新しい減額の仕組みによる影響の試算を公表した。仮に過去10年間の賃金下落を適用すると、16年度の年金受給額は現行より3%ほど減る。一方、将来の年金財政はよくなるとし、43年度には7%程度増えるという。

試算は民進党の要求に応じて公表した。国民年金（基礎年金）を満額受給している人の場合、今年度の年金額は月約6万5千円から2千円ほど下がる。厚生年金の人の場合は、夫婦で約7千円減る。

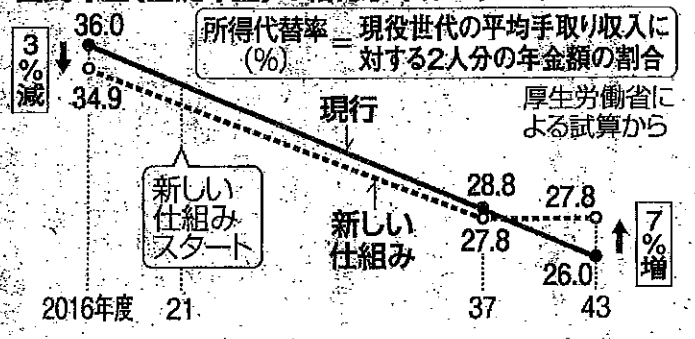
物価が上がっても賃金が下がった場合、現行では年金額を据え置くが、新しい仕組みでは賃金に合わせて下げる。過去10年のうち08年と10～13年の5回は、賃金の下落幅が物価より大きい。試算では賃金の下落に合わせて年金額を下げた。

一方、新しい仕組みで年金額の減り幅が大きくなることで将来に回せる財源が増え、給付水準を毎年少しずつ目減りさせる「マクロ経済スライド」は37年度に終了できるという。43年度の基礎年金は現行より数千円増額。10年後以降の経済成長率が実質0・4%の想定で計算すると、現在の価値で月約6万3千円が約6万7千円になる。

政府・与党は法案の目的について「世代間の公平性を確保するため」と説明。民進党は同じ前提で5・2%減るとの独自試算を示しており、「今後も影響の精査を求めていく」とする。

（井上充昌）

国民年金（基礎年金）の給付水準はこうなる



🔑 年金制度改革法案

年金額を物価に合わせて増減する原則に加え、賃金が下がっても減らす仕組みを盛り込んだ。物価は前年の消費者物価指数の変動率、賃金は前々年度までの3年間の実質賃金変動率の平均などから算出。ともに下がれば下げ幅の大きい方に合わせる。

埼玉退教に入会して

入間支部　　内田　秀人

この 3 月川越市立高校を退職し、悠々自適の生活に入れるのかと思いきや、自分でも意外なほど多忙な日々を送っています。

一つに地域の運動、「原爆絵画展実行委員会」と「さようなら原発・川越の会」に関わっていることが大きな要因だと思います。前者は全国的な運動が始まった 1985 年当初、30 歳の頃から関わり、平和を訴え、広げることの大切さを教えられてきたものです。

しかしながら、これは夏を中心にした運動なので、「あと半年をどう過ごすか？」と現役当時、考えていました。2011 年 3 月、私の退職時に 3．11 が起こりました。3．11 を目の当たりにして、これまでの自分の「平和、反核の運動」が如何に底の浅いものかを思い知らされました。そこで仲間や先輩と一緒に作ったのが「さようなら原発・川越の会」でした。3．11 は「あと半年・・・」などと悠長な気持ちでいたことを打ち砕くに十分な破壊力を持っていました。否応なくというというより、必然的に担う運動になったと思っています。

さて、そうした中で若い時から組合運動でつきあいのあった千葉のH氏から「ええ、退教に入っていないの？信じられねえな!」と言われ、入会したのが埼玉退教だったのです。加入の経緯が如何にもいい加減で安易だと自分でも思っています。それでも温かく受け入れてくれる人がいたことは嬉しいことでした。退教というと、年金問題等、高齢者福祉の問題を中心に取り組む組織だろうと考えています。勿論、その他平和に向けた取り組みや現代社会の政治的課題も取り組むことと思います。とりわけ今の安倍政治の憲法改悪路線、戦争法制定に抗する運動・闘いが退教にも問われていることと思います。しかしながらそれらは、あくまで現役組合の補完・補佐をするものだと勝手に思っています。この辺りの私の認識についても今後、ご指導を頂きたいと思っています。

その会員としての私の活動は、「19 日国会デモ」だけです。去年の 8 月 30 日の 12 万人集会以来、毎月 19 日には参加し、一度も欠かしたことがありません。でも、これだけでいいのだろうかとも思っています。前記したように退教の運動を何も知らない私なので、今後のご指導をよろしくお願いいたします。

編集後記

１０月２１日午後、鳥取県中央部で震度６弱の地震がありました。震源地付近で明確な活断層が確認されていなかったという。日本中地震がありあり得る、改めて原発近くで地震があたらと不安を感じました。

今回は、集会・動員等が集中していたので参加報告が多かった。また、活動的な新会員（本年３月に加入）の加入意図と活動についての報告ものせました。従来は、原稿執筆していただいたものを事務局長が編集していましたが、健康管理不充分で体調を悪くしたので、パソコン使用可能な会員には直接記載できるようご協力いただきました。ご協力に感謝申し上げます。